

チリメンモンスターにみる生物の多様性

岡山県立倉敷商業高等学校で水産研究所職員が出前授業

平成 27 年 1 月 26 日、岡山県立倉敷商業高等学校で水産研究所職員による出前授業を行った。無選別のチリメンに含まれる海の生物の観察を通じて、生物の多様性を知ることが目的に、卒業を控えた 3 年生が最後の生物の授業として学習した。

生物の多様性とは、種の多様性だけでなく、同一種でも形態の変化や遺伝的な違いがあり、さらに河口域や干潟、藻場など生息環境にも違いがあることを、カレイ類やガザミを例に発育段階ごとの形態や生息場所の違いを説明した。また、チリメンモンスター（きし

わだ自然資料館の登録商標）の観察では、体形、鰭の位置、体の模様や色素の出方などチリメンモンスター同定のポイントと、このような小さな生物が食物連鎖の中で要となって海の生態系を支えていること、生物同士が相互につながって生態系を構成していることを理解していただけたことと思う。

私たちは、周りに広がる豊かな海から様々な恩恵を受けていて、チリメンモンスターにみられる生物の多様性が食の多様性にもつながっている。（資源増殖室：萱野）



チリメンモンスター



授業風景



チリメンモンスターの同定